

会話一片

牧野信一

青空文庫

(Aは友Bは私)

A 「潤一郎の卅といふのを読んでゐる？」

B 「面白さうだ、が余り短いので読まないよ。彼のものは長いのを一時に読むのが愉快だ。本になつたら読む。」

A 「僕は大概始めから続けて読んでゐるが相変わらず面白いよ。」

B 「さう云へば君、菊池寛の半自叙伝は素的に面白いよ。今月だつてたつた二頁しか出てゐないが、これは僕は、毎月何んなに短くても屹度読んでゐる。第一回からずっと愛読してゐる。いつだつたかの所に、入学試験にパスして国へ帰る途中、さすがに嬉しく、汽車のデツキに出て口笛を吹いた——などゝいふようなと

ころがあつたがそんな風ないろ／＼一寸した箇所には僕は理屈のない面白味を覚えるよ。」

A 「冗にしろ、半自叙伝にしろ、兎も角あんまり短過ぎるね。

少くとも里見弴の大地位の分量を望むね。」

B 「うむ。」

A 「夢魔（岡田禎子作）といふ戯曲は仲々しつかりしたものだ。理智的で、堅実な筆致で、そしてぎごちなくない、相当落着き払った清新味もある。屹度この作家は勉強家で、堅実な歩みを続けて、佳き戯曲家になるだらうと思ふよ。」

B 「さうか、ぢや読んで見よう。」

A 「それから尾崎士郎の（悲劇を探す男）が力作だつた。この

作家は味気ないが、厭味のない、勇敢な作家らしいね。変に暗くもないし、無理な明るさもない、そして何となく薄ら寒くさつぱりとしてゐる。関^{かま}はず、自由に動いてゐる。」

B 「僕もさう思ふ。」

青空文庫情報

底本：「牧野信一全集第三卷」筑摩書房

2002（平成14）年5月20日初版第1刷

底本の親本：「時事新報 第一六三六一号」時事新報社

1929（昭和4）年1月5日

初出：「時事新報 第一六三六一号」時事新報社

1929（昭和4）年1月5日

入力：宮元淳一

校正：門田裕志

2011年7月14日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.waozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

会話一片

牧野信一

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>